



2021年度国家公務員中途採用者選考試験（氷河期世代）説明資料

農林水産省のミッション

～食を中心とした限りないフィールド～

農林水産省 近畿農政局

1. 農林水産省について
2. 農林水産業の現状と政策
3. キャリアパス・職場環境
4. 採用案内
5. 近畿農政局若手職員紹介

1. 農林水産省について

VISION STATEMENT

ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、

いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を

未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

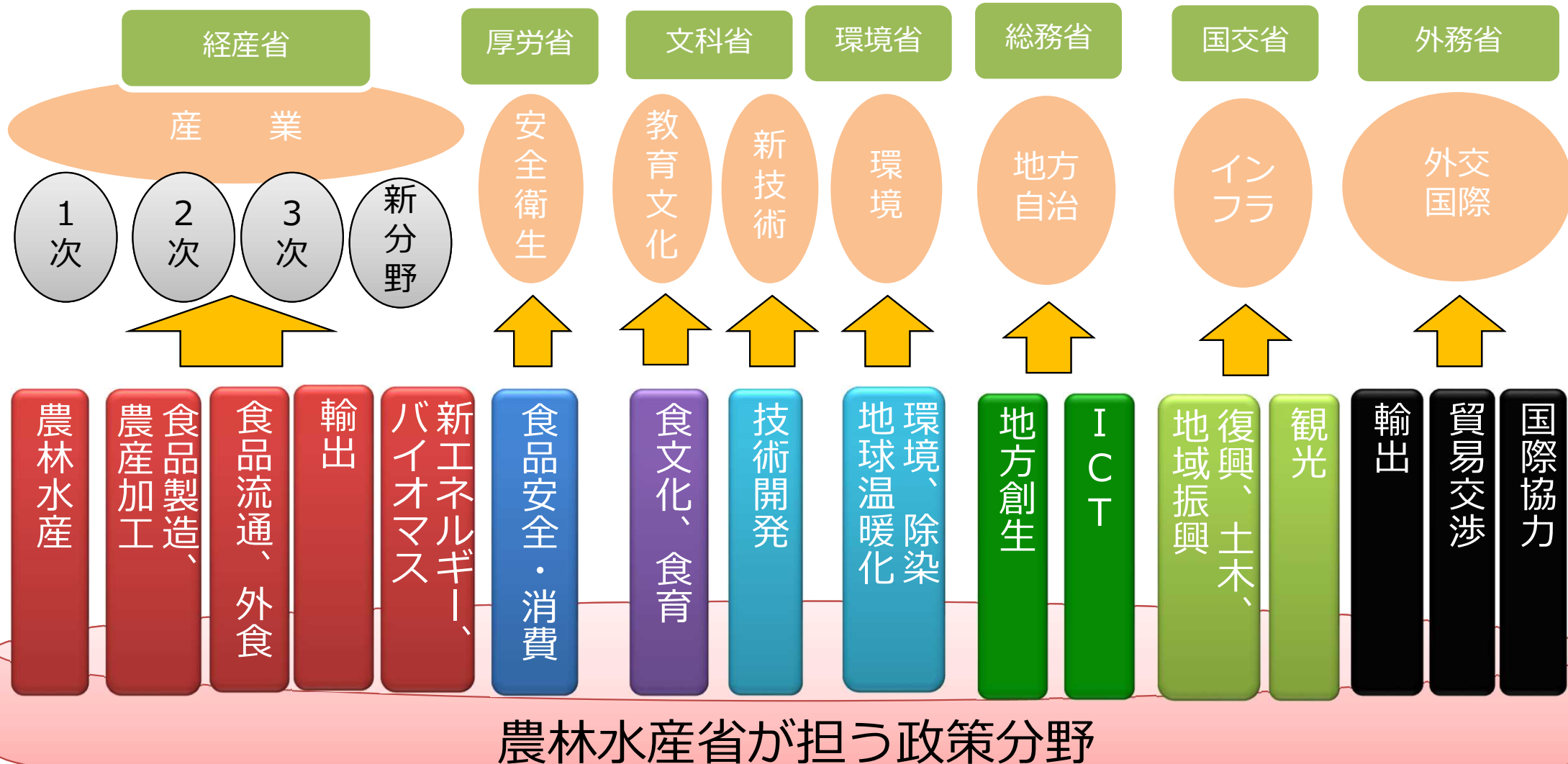
常に国民の期待を正面から受けとめ

時代の変化を見通して政策を提案し、

その実現に向けて全力で行動します。

農林水産省が担う政策分野

▼農林水産省は、「食」を中心に、産業政策、地域振興、インフラ、文化、外交等の幅広い政策分野を総合的に担うため、「**総合政策官庁**」と呼ばれています。



農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約5千人）と全国の各地方ブロック機関（約1万5千人）で構成され、総定員数は約2万人です。

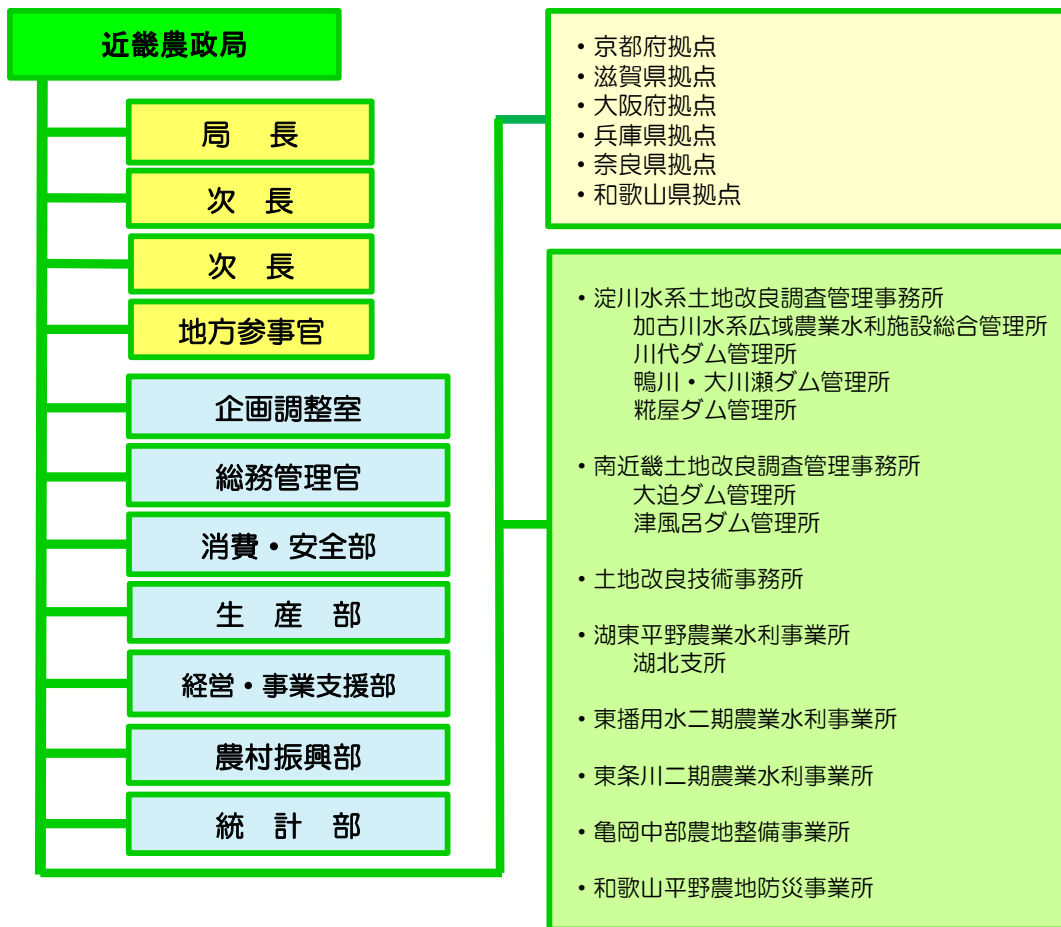
（主な機関）

- **本省**…農林水産政策の企画立案を担当します。
- **地方農政局**…農業政策の実施を担当します。
- **森林管理局**…国有林野の管理を担当します。
- **植物防疫所**…植物の輸出入検疫等を担当します。
- **動物検疫所**…動物の輸出入検疫等を担当します。



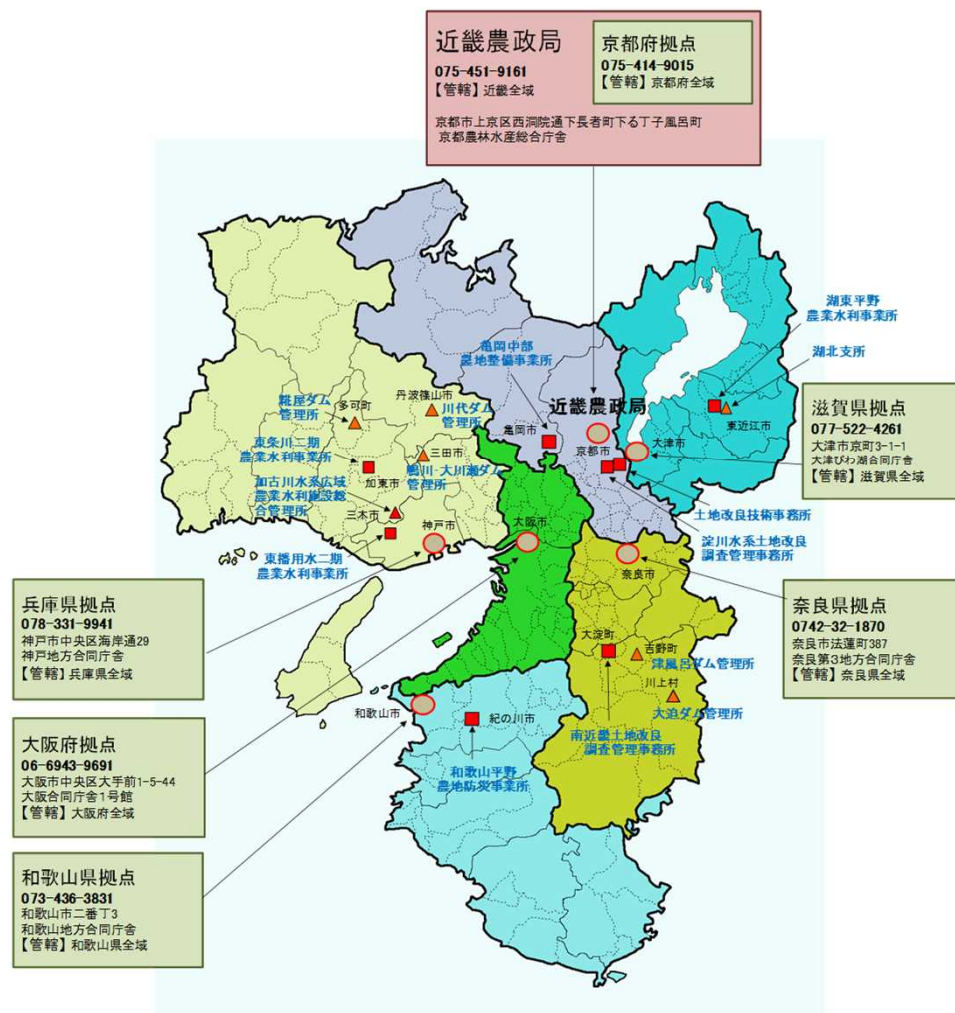
近畿農政局の組織

組織図



近畿農政局管内各機関位置図

(令和3年7月1日現在)



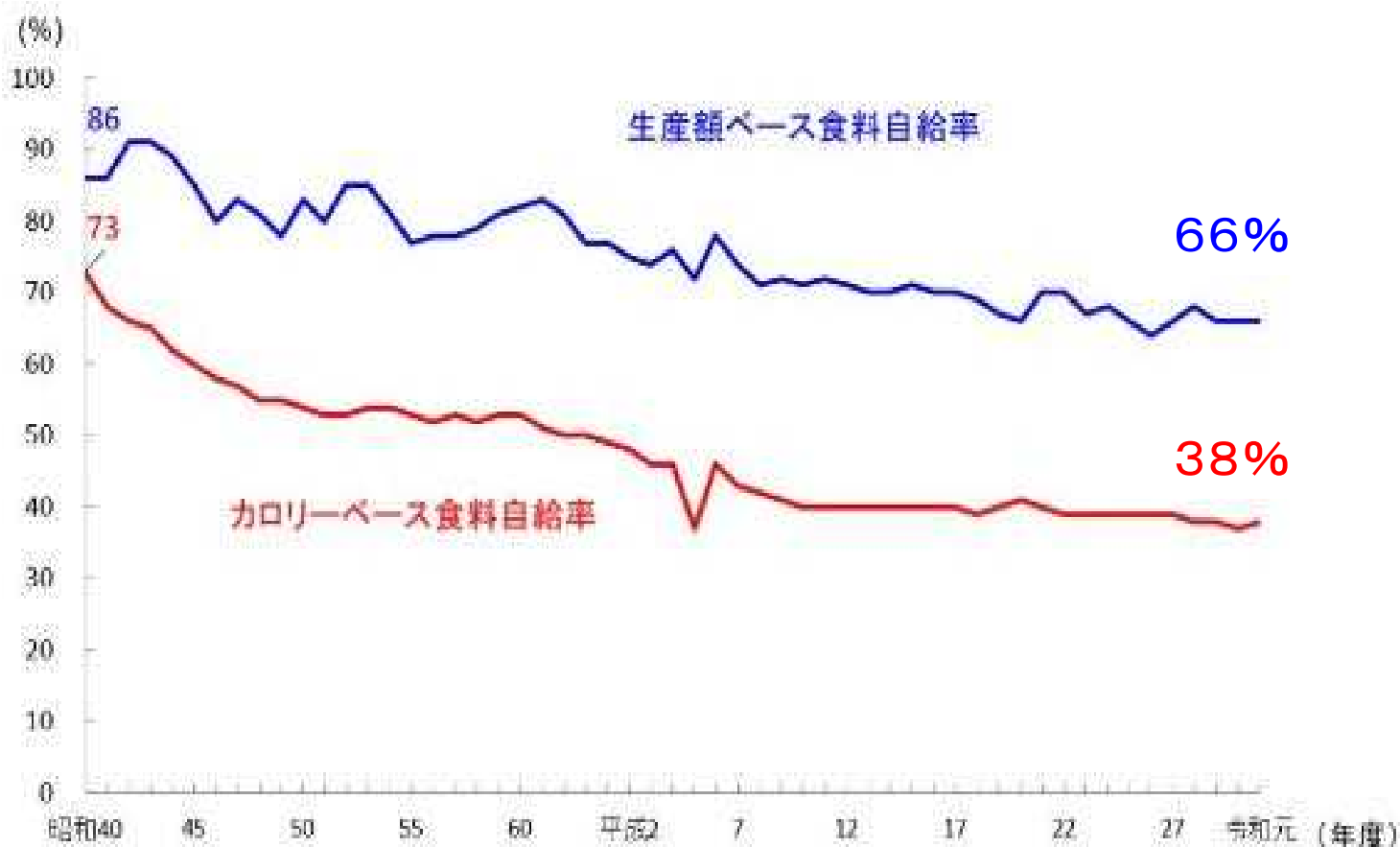
2. 農林水産業の現状と政策

① 日本の食料自給率の現状

食料自給率の推移

▼我が国の食料自給率は、長期的に低下傾向で推移してきましたが、カロリーベースでは近年横ばい傾向で推移しています。

▼国民に対する食料の安定的な供給については、世界の食料需給等に不安定な要素が存在していることを考慮し、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これと輸入及び備蓄とを適切に組み合わせることにより確保することが必要です。



食糧自給率の目標

令和12年度(2030)
<目標年度>

生産額ベース
総合食料自給率



75%

カロリーベース
総合食料自給率



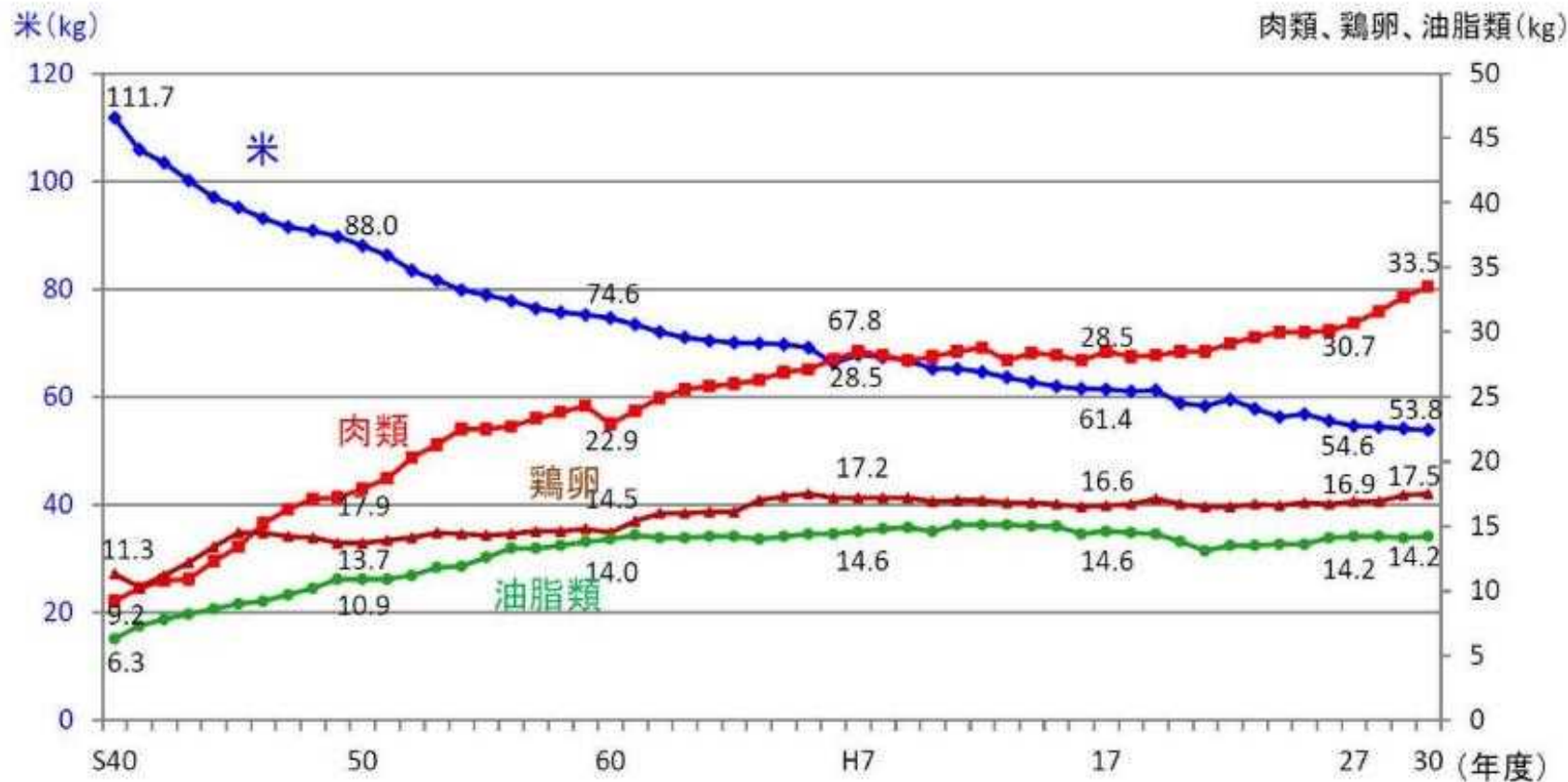
45%

食料消費構造の変化

▼食生活の多様化が進み、国産で需要量を満たすことのできる米の消費が減少し、飼料や原料の多くを海外に頼らざるを得ない畜産物や油脂類等の消費が増加した結果、食料自給率が低下しました。

▼需要の変化に応じた生産の推進や、消費面においても、農業と食品産業の連携強化等により、国産農産物の需要拡大を図ることも重要です。

■米、畜産物、油脂類の1人・1年当たり消費量の変化

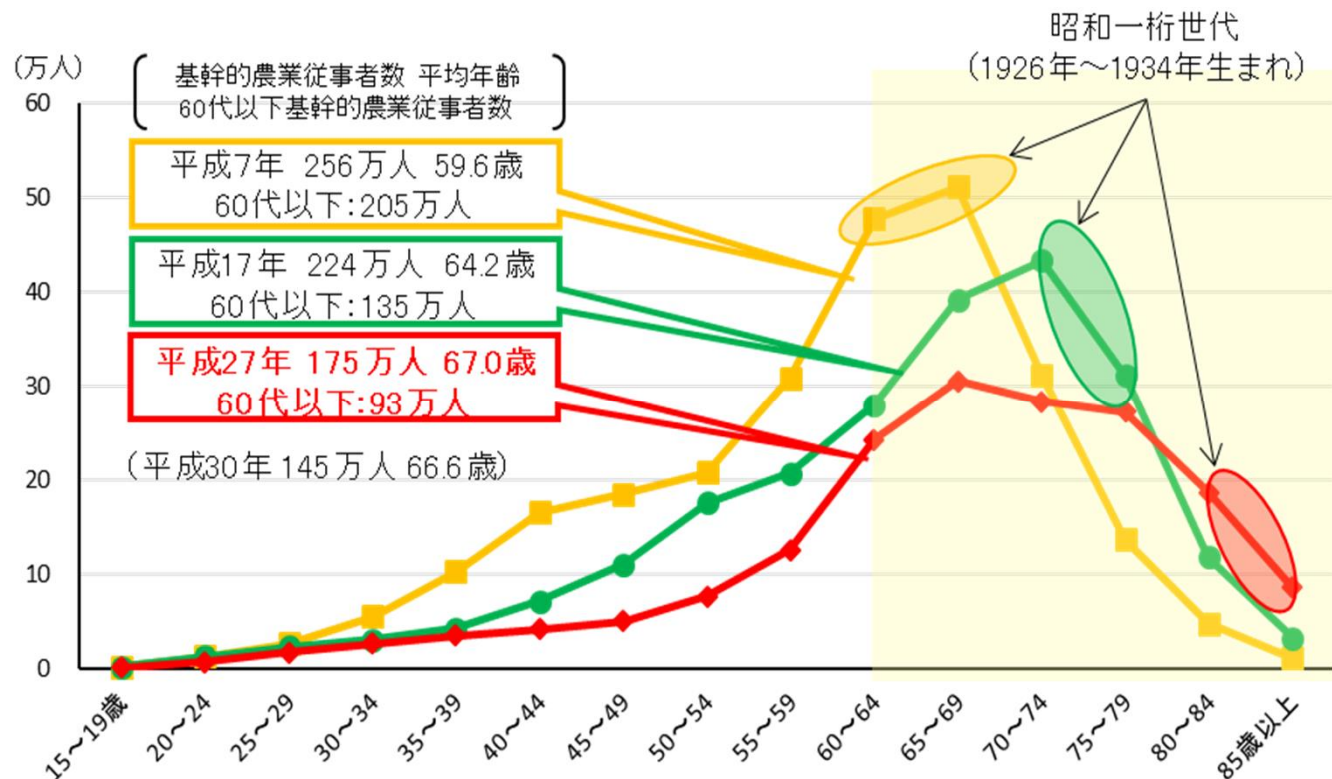


資料：農林水産省「食料需給表」
注：1人・1年当たり供給純食料を記載。

② 農業従事者・農地の現状

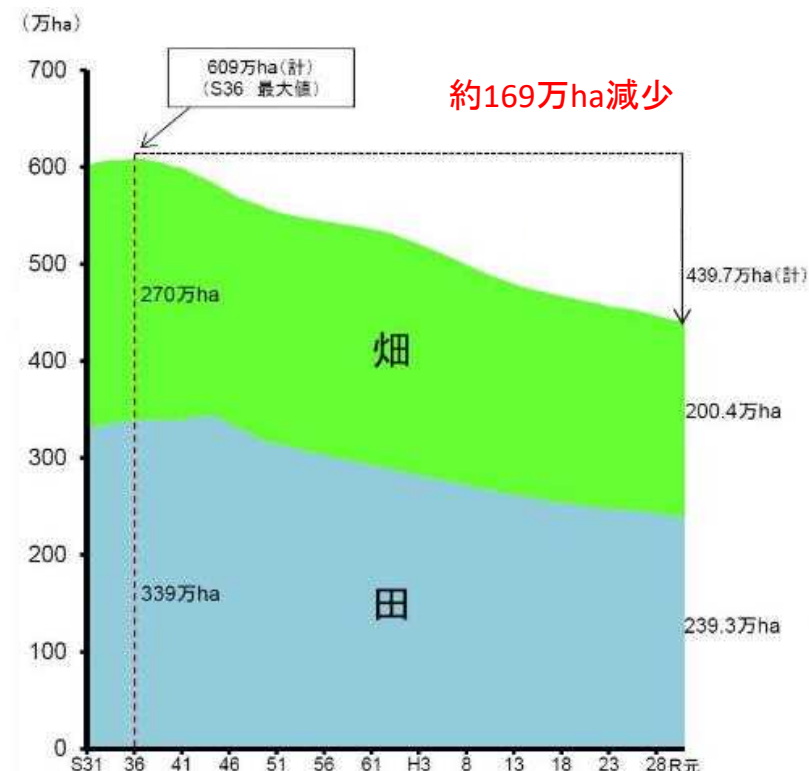
農業従事者の減少・高齢化とそれに伴う農地の減少

- ▼日本の農業を支える基幹的農業従事者は、**高齢化が進み、平均年齢は67歳**です。
- ▼今後も昭和一桁世代のリタイヤや若い人材の他産業との獲得競争の激化等により、**大幅に減少**する見込みです。
- ▼農業従事者減少に伴い、農地面積も、この50年で**4分の3にまで減少**しました。



基幹的農業従事者: ふだん仕事として主に自営農業に従事した者。(家事や育児が主体の主婦や学生等は含まない。)
 農業就業者: 基幹的農業従事者及び雇用者(常雇い)

資料: 農林水産省「農林業センサス」

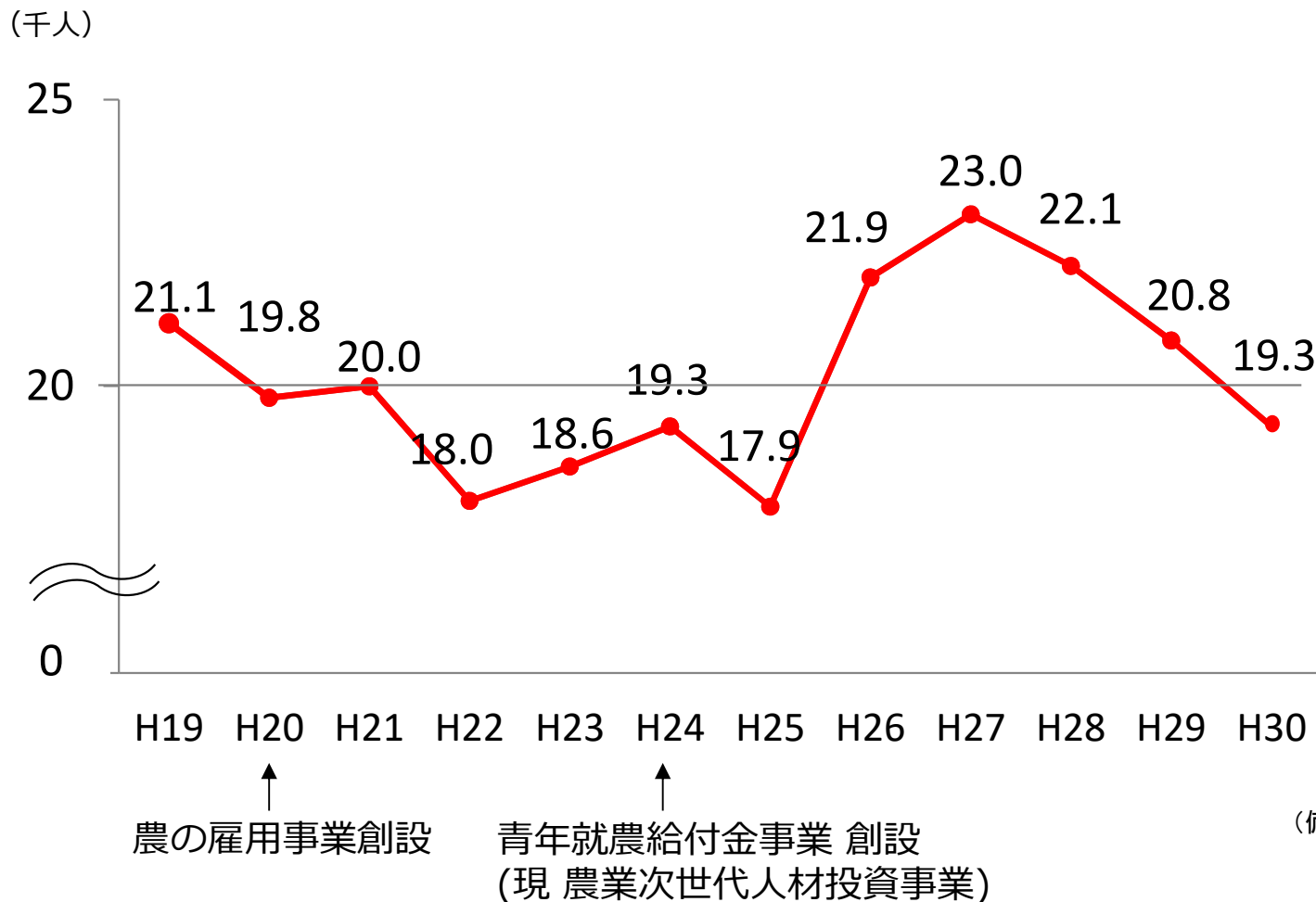


資料: 農林水産省「耕地及び作付面積統計」

新規就農者の推移

- ▼世代間のバランスのとれた農業就業構造の実現に向けて、青年層の就業者の増加が喫緊の課題。
- ▼ 49歳以下の新規就農者数は、近年はおおむね2万人程度で推移。

新規就農者数（49歳以下）の推移



農の雇用事業

農業法人に就職した青年に対する研修経費として年間最大120万円を最長2年間助成

農業次世代人材投資事業 (準備型)

研修期間中、年間150万円を最長2年間交付

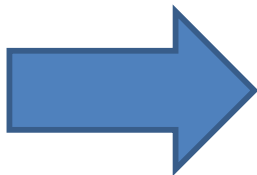
農業次世代人材投資事業 (経営開始型)

50歳未満で独立して自営する認定新規就農者に対して、年間最大150万円を最長5年間交付

(備考) 1. 農林水産省統計部「新規就農者調査」により作成。
2. H23～28年は、東日本大震災の影響で調査不能となった福島県の一部地域を除いて集計。

○ 現状

- ・ 高齢化する農業者
- ・ 減少していく農地



○ 目指すべき姿

若い人が農業に参入



なぜ、若い人が農業に入ってこないのか？

【目指すべき方向】

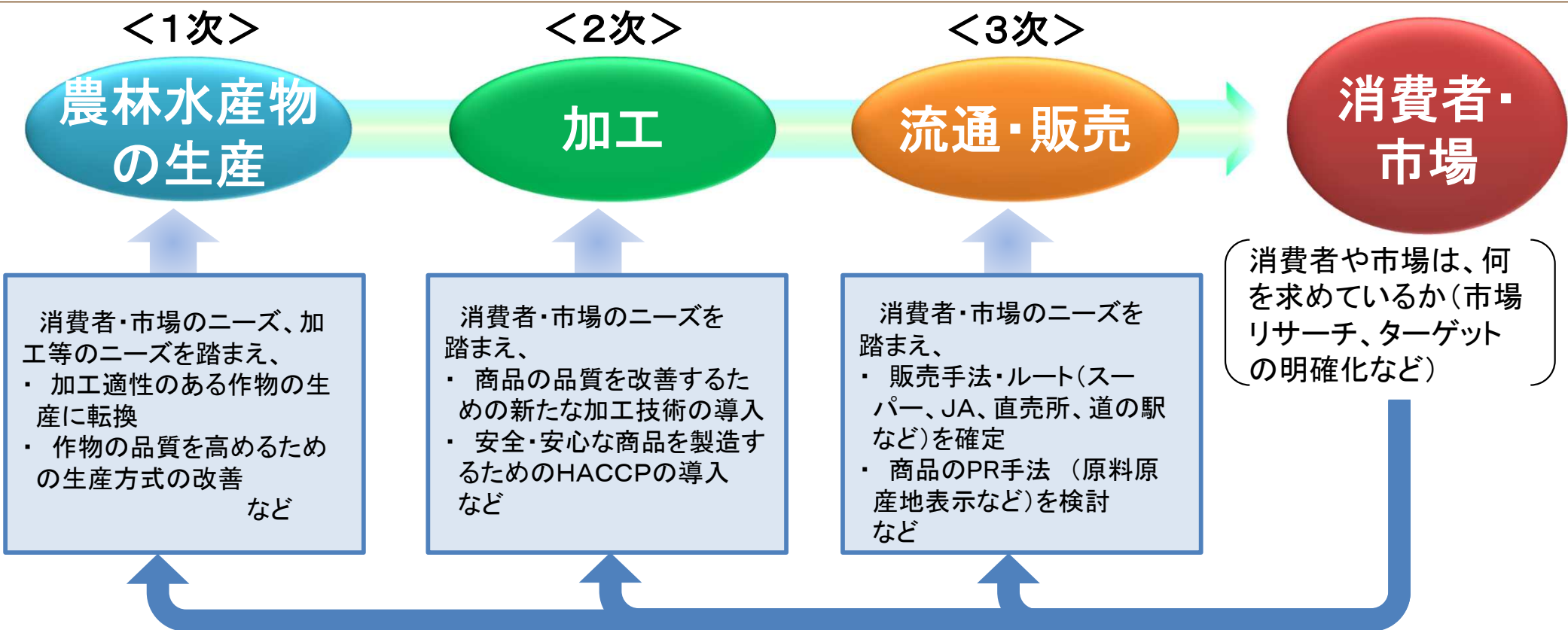
農業を職業の選択肢として魅力あるものに！

農業の成長産業化 = 儲かる農業

6次産業化(農産物の高付加価値化⇒雇用創出にも)

1次(生産) × 2次(加工) × 3次(販売) = 6次産業化

農業を1次産業だけではなく、加工などの2次産業、さらにはサービスや販売などの3次産業まで含め、**1次から3次まで一体化した産業**として農業の可能性を広げようとするもの



6次産業化の市場規模

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
4.7兆円	5.1兆円	5.5兆円	6.3兆円	7.1兆円

6次産業化の取組事例

全国の耕作放棄地を活用した業務用野菜の生産・加工・販売

有限会社 ワールドファーム



ほうれん草の収穫と1次加工中の風景

【茨城県つくば市】

- 全国各地の自治体との進出協定を締結し、耕作放棄地を活用したキャベツ、ほうれん草等の生産及び業務用一次加工(カット、冷凍)を展開するとともに、地元若手就農者の雇用を促進。
- 販売や他社との提携窓口として設立したONLY JAPANを経由し、食品メーカーや外食等に業務用として販売。
- 売上高 1,647百万円(2019年6月期)
- 雇用者 80名
- 総合化事業計画認定(平成25年5月)

生産

・国内13カ所で大規模露地野菜栽培を行う。

加工

・自社加工場を建設し、一次加工を行う。

販売

・株式会社ONLY JAPANを設立し、業務用として販売。

農を基軸に観光と融合

株式会社ザファーム



グランピング施設

【千葉県香取市】

- 90戸超の農家が組合員となっている農事組合法人和郷園を中心とした和合グループの一員として体験型農園リゾート施設を展開。
- 農園内では1年を通じて約50品目の野菜が作付けされ、様々な季節の野菜の収穫体験や地元産野菜を使用した料理の提供を行っている。
- 売上高 658百万円(2019年7月期)
雇用者 130名(臨時職員含む)

生産

・約50品目の野菜を作付けし、サービスの一環として収穫体験を行う。

加工

・関連会社和郷から各施設へ野菜や加工品を流通。

販売

・地元観光施設等と連携し各施設に対応した商品の提供。

農地の集積・集約化によるコスト削減

▼集積・集約化された農地で生産することで、コストを削減することができます。

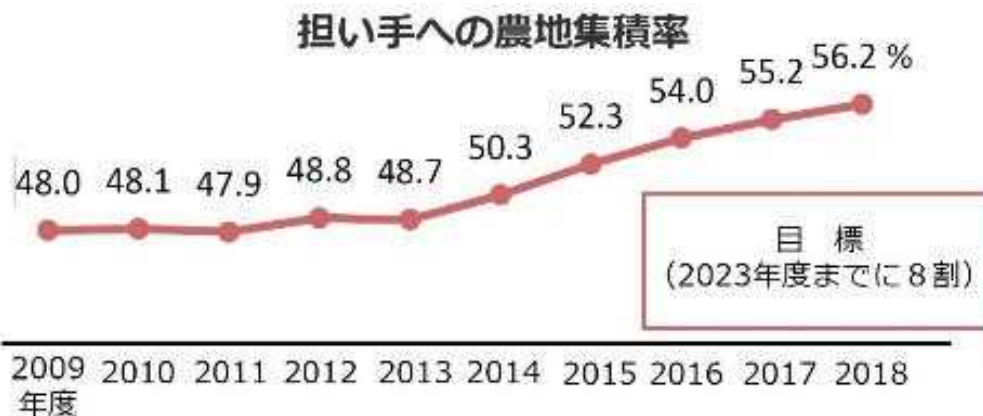
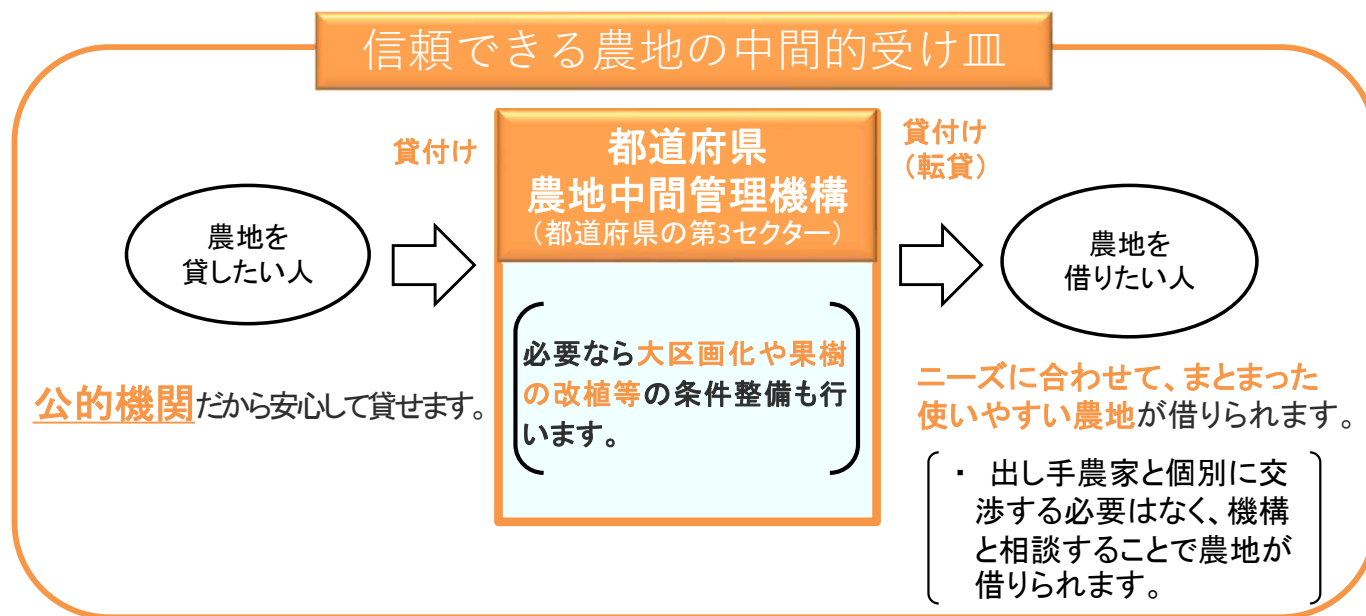
▼農地の仲介者としての農地中間管理機構を活用するなどして、担い手への**農地利用集積率を8割**にまで高めることを目標にしています。



小規模零細で所有権が分散した経営構造



農地の8割を担い手に集積



資料：農林水産省作成
注：農地バンク以外によるものを含む

世界トップレベルの「スマート農業」の実現に向けて

▼スマート農業とは、**ロボット技術、AI、ICT等の活用により超省力・高品質生産を可能にする農業**です。

▼技術を早急に実用化・商品化し、**農業者による実装**を強力に推進しています。

スマート農業の例

- ・自動運転システム+高精度GPS → 省力化、無人化により**労働力不足を解消**
- ・センシング技術+ビッグデータ+IoT+AI → 精密農業の実現により**収量・品質を向上**
- ・ロボット技術 → 重労働や危険作業からの解放により**労働環境を改善**

⇒我が国は、スマート農業に活用できる要素技術の特許出願件数が世界トップクラス

農薬散布用ドローン

((株) ローソンファーム新潟 (新潟県))



- ・1haあたり10分で散布可能 (従来作業では1haあたり1時間)
- ・大手農機メーカー等から販売中

自動運転田植機

(農研機構実証ほ場 (埼玉県))



- ・熟練者並の速度と精度で作業が可能
- ・大手農機メーカー等から販売中

自動収穫ロボット

((株) 浅井農園 (三重県))



- ・AIによる画像認識により、収穫適期の果実を自動収穫
- ・大手メーカー等が開発中

観光ビジネスによる地域の活性化～農泊の推進～

▼「農泊」とは、農山漁村地域に滞在・宿泊し、豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことです。

▼国内外の観光客を呼び込み、農山漁村の所得向上と地域の活性化を図ります。

農泊（農山漁村滞在型旅行）



支援策

◆ 農山漁村振興交付金

魅力ある観光コンテンツを磨き上げる取組、古民家や廃校等を活用した滞在施設等の整備を支援



地元食材を活用した食事



古民家を活用した宿泊施設



地域資源を活用した体験

◆ 情報発信



動画(YouTube)による情報発信

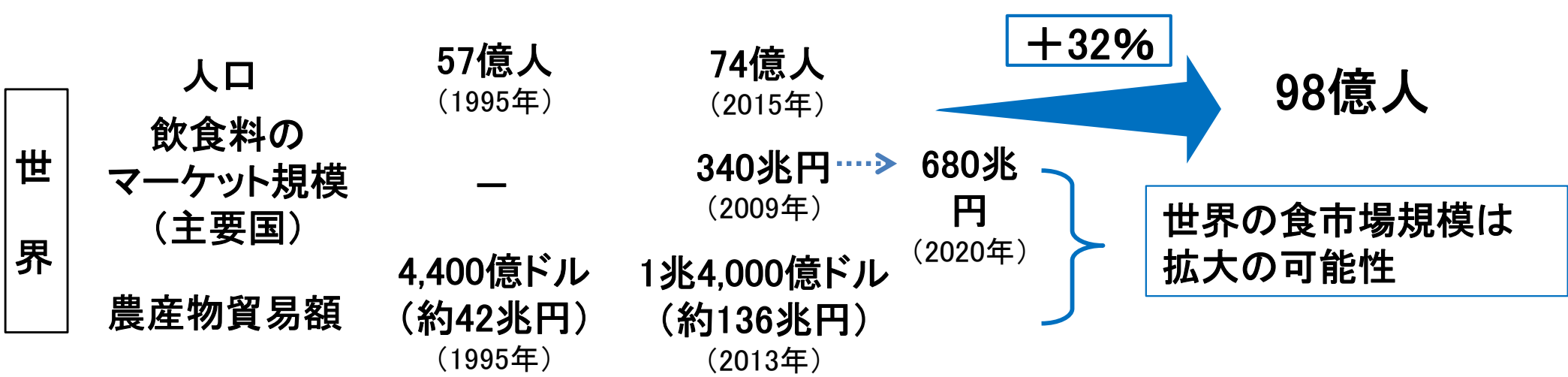
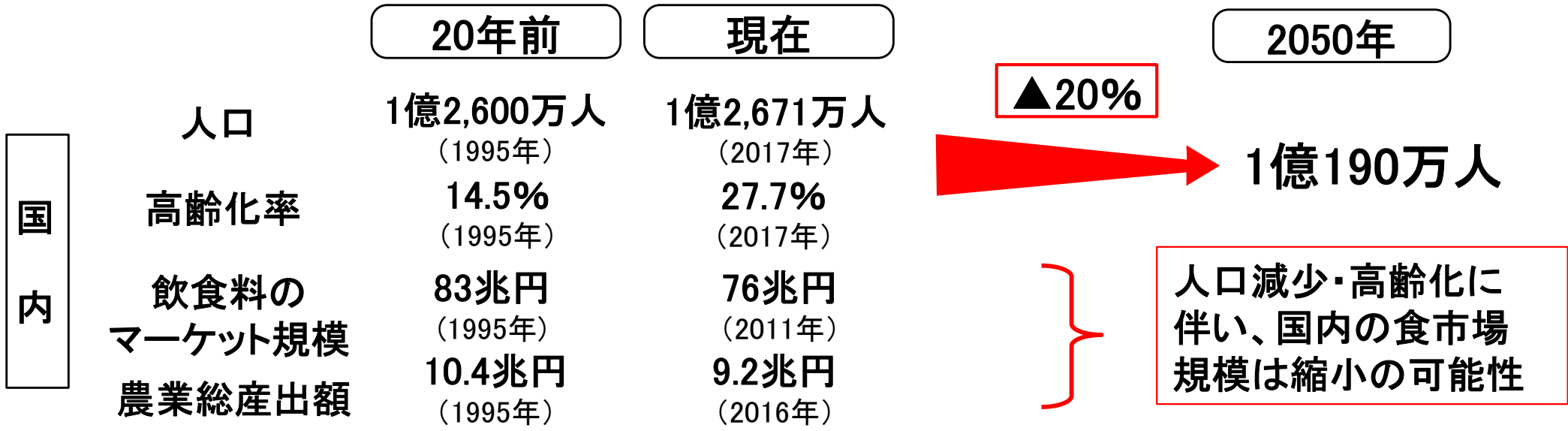


農泊地域のプロモーション動画

③ 農政を取り巻く状況

農政を取り巻く状況の変化

▼人口減少や高齢化に伴い、国内の市場規模は減少する可能性がある一方で、世界の農産物マーケットは拡大する可能性があります。



農林水産業の輸出力強化のための取り組み

▼輸出額は平成25年から8年連続で増加し、2020年輸出実績は9,223億円です。

▼輸出に向けて、グローバル産地づくりや、輸出向け施設整備に対する支援などを推進しています。

GFP(農林水産物・食品輸出プロジェクト)によるグローバル産地づくり

あなたを、

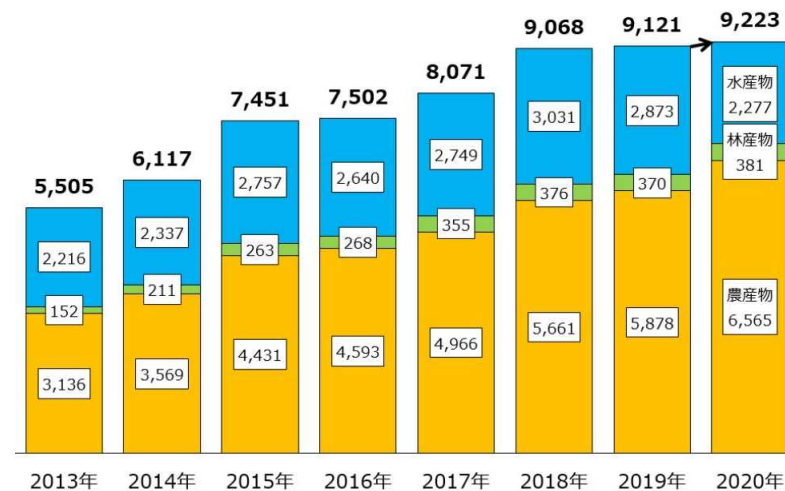
生産者の日本代表にしたい。



1億人ではなく、
100億人を見据えた
農林水産業へ。

四季の豊かなこの国で、だれかを喜ばせたい一心で取り組む生産者のみなさんへ。
海外各国からのニーズが大きくなっている今、みなさんと輸出の成功事例をつくって
いきたい。このコミュニティにぜひ参加して第一歩を踏み出しませんか。農林水産省が
全力でサポートします。

農林水産物・食品の輸出額の推移



輸出をサポートする、GFPのサービス（抜粋）

01 輸出診断・訪問診断

農林水産省がJETRO、輸出の専門家とともに、生産現場等に直接出向いて輸出の可能性を無料で診断します。

03 商品リクエスト

輸出商社等が現地ニーズに基づく「商品リクエスト」発信し生産者等との商談につなげるサービスです。

04 グローバル産地づくり推進事業

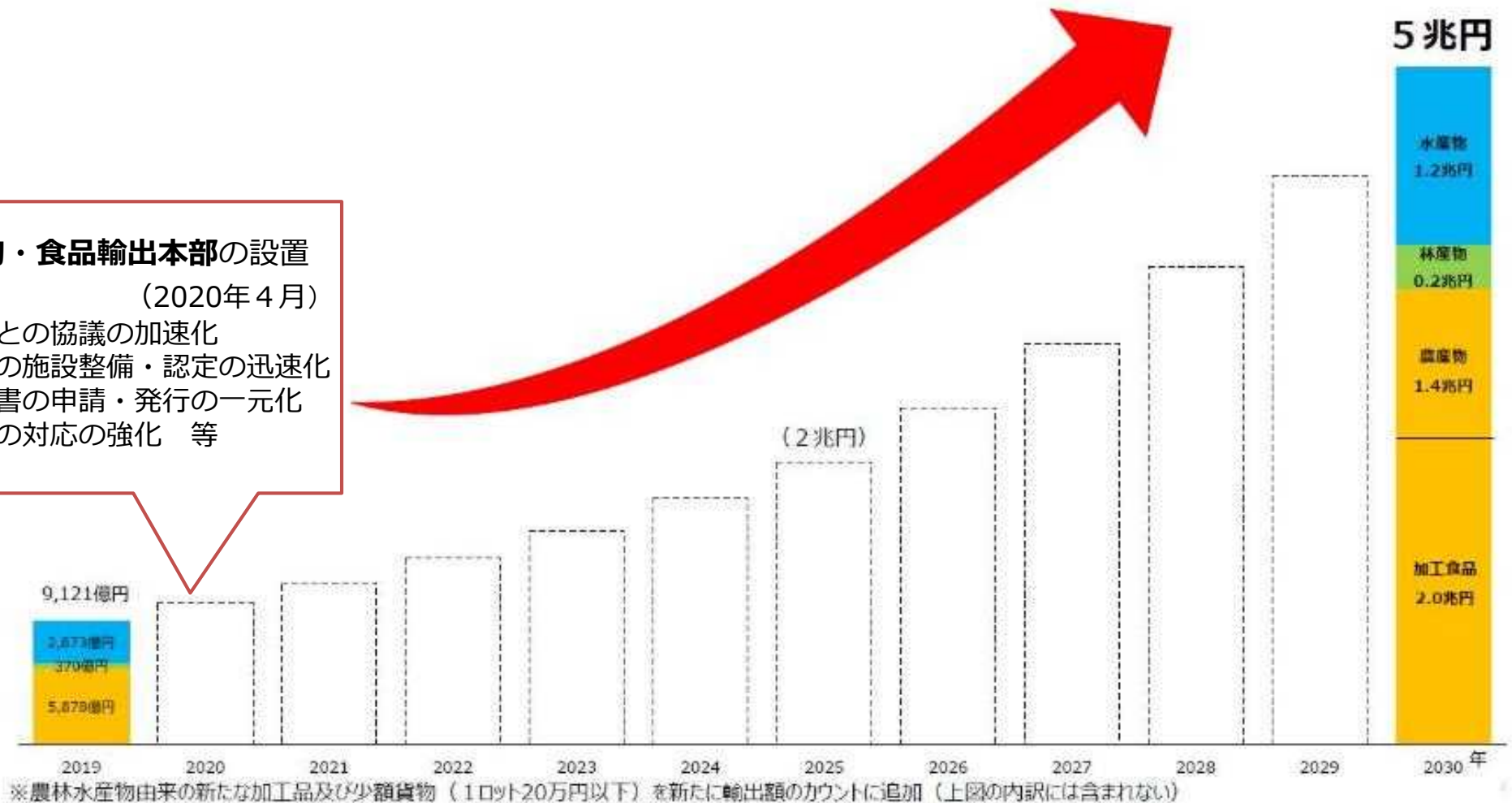
輸出先国のニーズと規制等に対応し、積極的に戦略持って輸出への取り組みを行う産地形成を支援する事業です。

新たな農林水産物・食品の輸出額目標

▼政府一体となった輸出促進や日本食・食文化の海外普及や食産業等の海外展開等の取組を推進し、農林水産物・食品の輸出額を令和12（2030）年までに5兆円とすることを目指します。

農林水産物・食品輸出本部の設置 (2020年4月)

- ・輸出先国との協議の加速化
- ・輸出向けの施設整備・認定の迅速化
- ・輸出証明書の申請・発行の一元化
- ・在外公館の対応の強化 等



① 日本産食材サポーター店認定制度

民間が主体となり、日本産食材を積極的に使用する海外のレストラン・小売店を「サポーター店」として認定する制度を推進。日本産農林水産物・食品のユーザーである飲食店等を「見える化」し海外需要を拡大することで、輸出促進を図る。
実績進捗：4,112店（平成31年3月29日時点）（香港、中国、タイ、アメリカ、フランス、シンガポール等）



② 海外における日本食・食文化発信の担い手育成（外国人料理人の育成等）

日本産品や日本食・食文化の魅力を発信し、我が国の食関連事業者等が海外展開をする際にパートナーとなり得る人材を育成。

- 日本料理の調理技能認定制度
- 「日本食普及の親善大使」によるセミナー
- 海外の外国人料理人を招へいた日本料理店研修
- 日本料理海外普及人材育成事業（日本の調理師学校の外国人卒業生）
- 日本人日本食料理人の海外展開支援事業
- 海外料理学校との連携



外国人の日本料理の技術を競い合う料理コンテスト（和食ワールドチャレンジ）



料理講習会（フランドル料理学校）



日本料理店での研修

③ トップセールスによる日本食・食文化の魅力発信

総理、大臣等の国際会議出席や出張等の機会に合わせ、日本産食材を活用したメニューのレセプションを実施。



ダボス・ジャパンナイト(2019年1月)



国連総会(2017年9月)



TICAD(2016年8月)

④ 日本食・食文化の紹介映像の制作・発信

様々なメディアを活用し、日本産品や日本食・食文化の魅力を発信する動画コンテンツを制作。

各国で発信するほか、5年間の利用権を確保し、農林水産省のYouTube（maffchannel）での配信など、二次利用も実施。



【初音ミク】“OISHII” TRIP



【EURO NEWS】Taste

農福連携の取組方針と目指す方向

○ 農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組であり、農林水産省では、厚生労働省と連携して、「農業・農村における課題」、「福祉(障害者等)における課題」、双方の課題解決と利益(メリット)があるWin-Winの取組である農福連携を推進。

「農」と福祉の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
※毎年、新規就農者の2倍の農業従事者が減少
- ・荒廃農地の解消 等
※佐賀県と同程度の面積が荒廃農地となっている

【福祉(障害者等)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
※障害者約964万人のうち雇用施策対象となるのは約377万人、うち雇用(就労)しているのは約94万人
- ・工賃の引き上げ 等

障害者等が持てる能力を発揮し、それぞれの特性を活かした農業生産活動に参画

【農業・農村のメリット】

- ・農業労働力の確保
- ・農地の維持・拡大
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持 等

【福祉(障害者等)のメリット】

- ・障害者等の雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ
- ・一般就労のための訓練 等



労働力の確保



新たな就労の場の確保

目指す方向

1 農業生産における障害者等の活躍の場の拡大

障害者等の雇用・就労の場の拡大を通じた農業生産の拡大。



2 農産物等の付加価値の向上

障害の特性に応じた分業体制や、丁寧な作業等の特長を活かした良質な農産物の生産とブランド化の推進。



3 農業を通じた障害者の自立支援

障害者の農業への取組による社会参加意識の向上と工賃(賃金)の上昇を通じた障害者の自立を支援。



現状・課題

「知られていない」

- これまでは関心のある福祉関係者等を主なターゲットとしたセミナー等が中心で、国民全体への理解促進に向けた取組が十分行われてきていない。

「踏み出しにくい」

- 農業現場において障害特性を踏まえた助言等を行うことができる人材が不足している。
- 農業現場において障害者等を受け入れるためには、働きやすい環境を整備するとともに、農福連携の取組を通じ、その経営が経済活動として発展していくことが重要。

「広がっていない」

- 農福連携を全国的に広く展開させて、各地域において農福連携が定着するために、国・地方公共団体、関係団体等をはじめ、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として推進していくことが重要。

認知度の向上

取組の促進

取組の輪の拡大

対応

戦略的プロモーションの展開

- ノウフクJASを始めとするノウフク商品の消費者向けキャンペーンやメディアを活用した**戦略的プロモーションの実施**



ノウフクJAS認証第1号

農福連携を支援する専門的な人材の育成

- 農業分野における障害者の職場定着を支援する専門人材である「**農福連携技術支援者**」(いわゆる農業版ジョブコーチ)の**研修制度**を構築



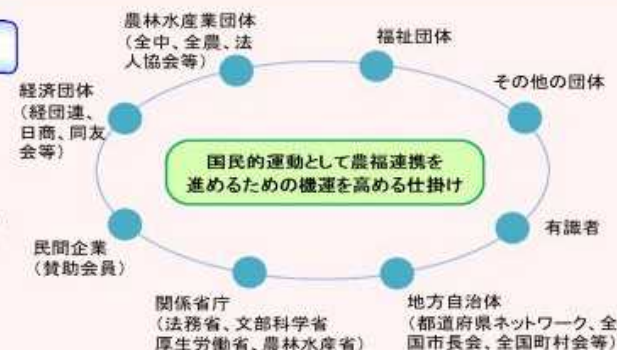
人材育成研修 (三重県の例)

農福連携に取り組む機会の拡大、環境整備・経営発展の支援

- 農業者、障害福祉サービス事業所による**農福連携の実践**や、地方公共団体が両者の支援に着手するための**手順や留意事項をまとめたスタートアップマニュアル**を策定
- 農山漁村振興交付金(農福連携対策)により、障害者等の雇用就労を目的とした**農業用ハウスや加工施設の整備等**を支援

国民的運動を展開する基盤の形成

- 国民的運動として農福連携を進めるための機運を高める仕掛けとして、各界の関係者が参加する**コンソーシアムを設置**。今後、「ノウフク・アワード」選定による**優良事例の表彰・横展開等**を実施。



3. キャリアパス・職場環境

<参考> 入省後のキャリアパス【一般職大卒・行政の一例】

- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。
- ▼ 本人希望を踏まえつつ、おおむね2年程度で様々なポストを経験していただき、自分にあった分野のスペシャリストを目指していただきます。

本省及び地方農政局の
管理職



課長補佐
(17年目以降)



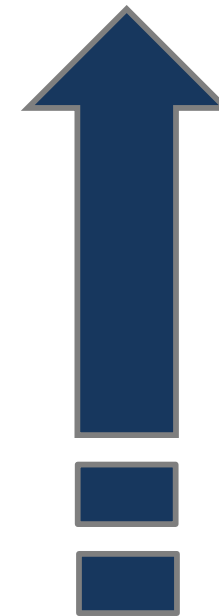
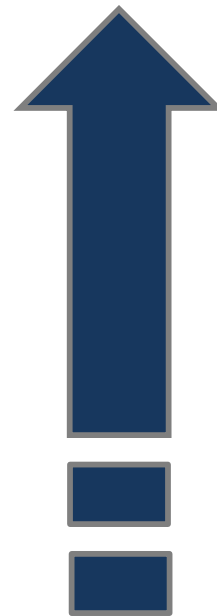
係長
(7年目以降)



係員

政策の企画立案
業務

行政の運営管理
業務



一般職(行政)採用後の業務について(業務内容の一例)

本省での政策の企画立案業務

- ・ 日本食文化の発信 (食料産業局 海外市場開拓・食文化課 食文化室海外普及班 海外普及係)



- ・ 海外における日本食魅力発信イベントの実施
- ・ 外国人の日本食料理人の育成等に係る企画立案や事業の執行を行う。

- ・ 国際関係業務 (大臣官房国際部国際経済課)



- ・ 国連機関の会合での交渉 (出張・テレビ会合)
- ・ 国際機関への拠出金事業の運営
- ・ 国際機関への職員の派遣に関する外務省、在外公館、省内関係部署との連絡調整や、国際機関からの各種発表の確認を行う。

- ・ 農山漁村の活性化 (農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 高齢者対策班)



- ・ 農福連携の取組を全国的に普及させるため、メディア等を活用したプロモーション活動を実施。
- ・ 予算要求のための資料作成等を行う。

近畿農政局での行政の運営管理・施策実施業務

- ・ 企画・広報業務 (近畿農政局企画調整室)



- ・ 局の窓口として、外部からの依頼等を適切な部署に振り分け、局内の円滑な業務遂行に貢献する。
- ・ 近畿農政局のHPの運営に関する事務を行う。

- ・ 予算・会計業務 (近畿農政局会計課)



- ・ 事務費の所要額を精査し、本省を通じて予算要求を行う。
- ・ 予算が、適切に執行されるようその執行状況を管理する。
- ・ 会計検査院の行う検査に関する連絡調整に関する事務を行う。

- ・ 人事・採用業務 (近畿農政局総務課人事第1係)

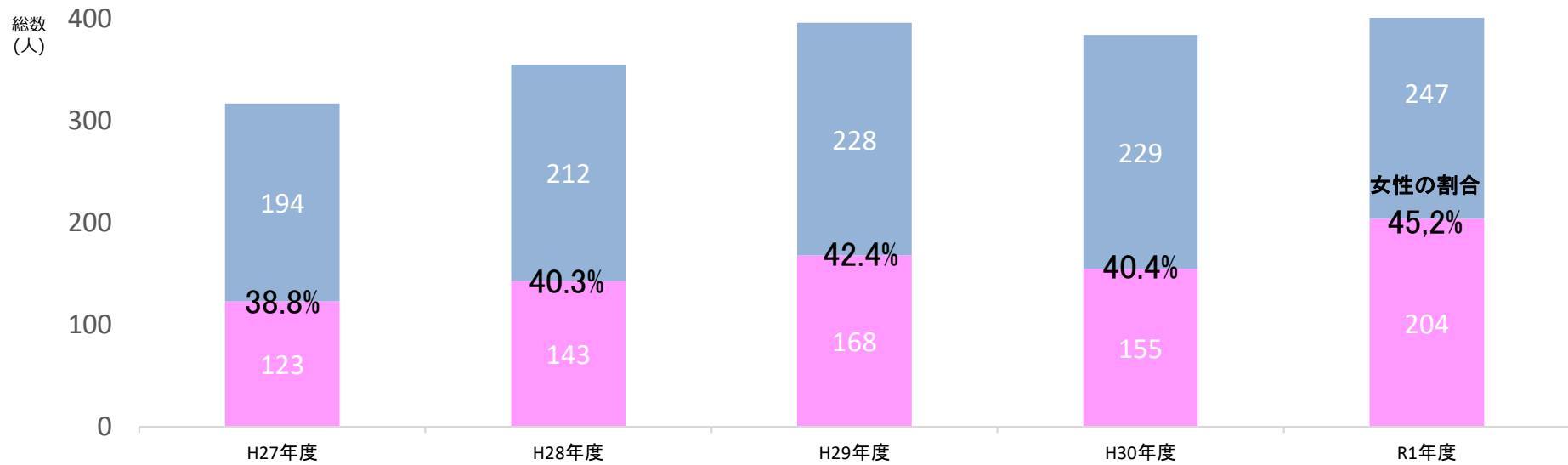


- ・ 人事異動に伴う辞令を作成、農林水産省本省や他の地方農政局との人事交流の連絡等を行う。
- ・ 新規採用に向けた業務説明会の企画や、開催に際しての連絡・調整業務、官庁訪問等の採用事務を実施する。

職員の働き方(ワークライフバランス・子育て)

○ 女性国家公務員の採用状況

農林水産省における直近の女性公務員の採用割合は、**40%**を超えています。



※農林水産省における女性の職業選択に関する情報の公表（令和元年7月）

○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

本省 (常勤職員)	23.1時間
地方機関 (常勤職員)	7.1時間
合計	10.7時間

※令和元年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。

現場を知る

○ 新規採用者研修

入省1年目の職員を対象に4月に合宿形式により行われます。公務員としての心構えや農林水産行政の基礎知識を講義形式で学ぶ【高尾コース】と、ほ場での実習や先進的な生産現場における現地研修を行う【つくばコース】の2本立てで実施しています。



○ 農村派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて農業・農村の現場を肌で感じることを目的とします。入省1、2年目の職員を対象に、近畿圏内各地の農家の元に5日間派遣し、農業者の生活に密着し、農作業体験の充実を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場の声を踏まえた施策を企画・推進するため、管内各部の幹部による講演や、外部講師を招いた講演などを行っています。

また、現場においてふさわしい礼儀作法を身につけることを目的に、ビジネスマナー研修も実施しています。



○ シンポジウム、セミナー

近畿農政局が主催する「和食シンポジウム」、「食育シンポジウム」などのシンポジウムや各種セミナーにも参加できます。



○ その他にも、さまざまな研修を実施しています！

4. 採用案内

求められる能力、資質とは？

主体性
・
積極性

農林水産業を取り巻く諸課題
(強い農林水産業の構築)への
対応

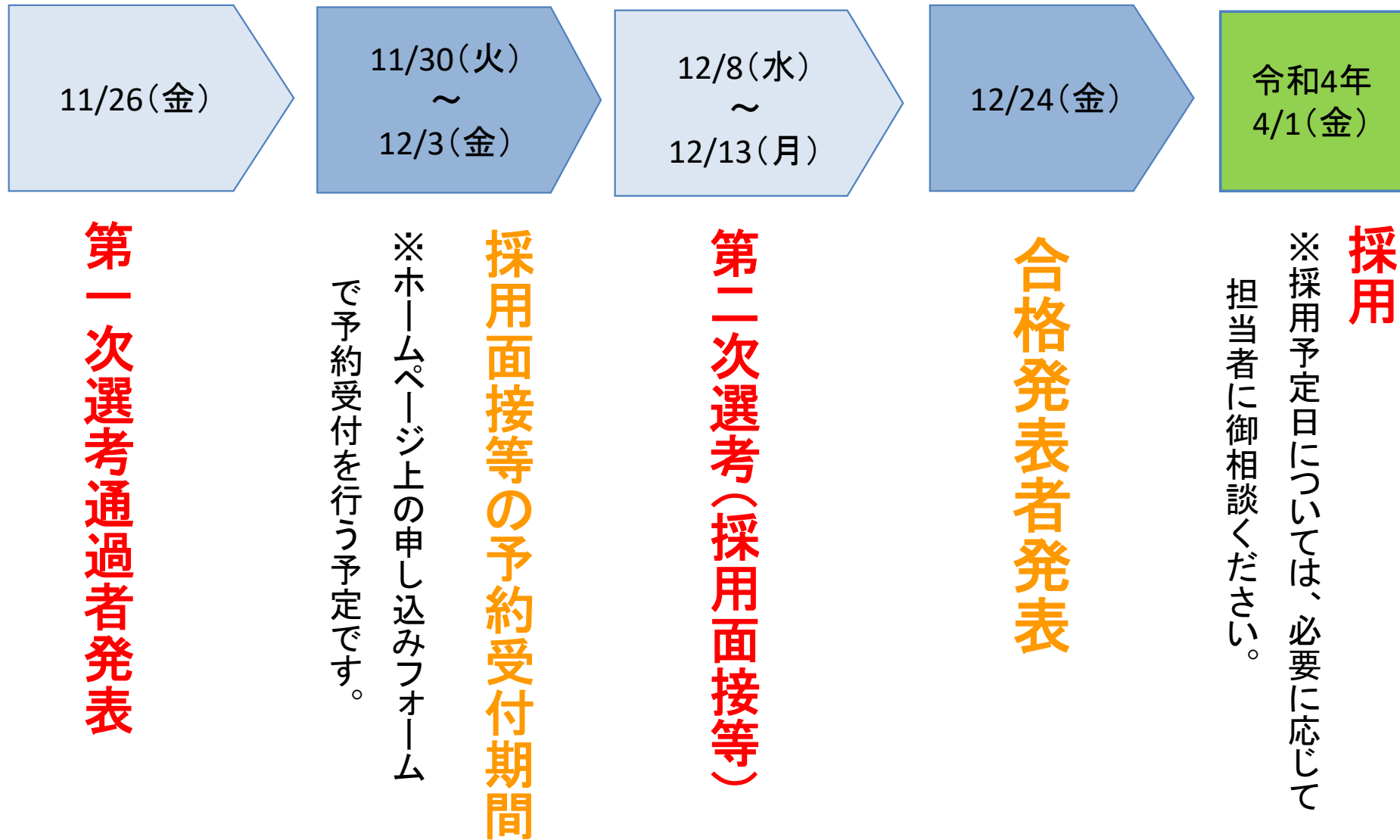
協調性

多様な職種の人材がチーム一丸
となって課題に挑む農林水産省
ならではの特徴

真面目さ

法律・制度を理解して、適確
に事務を処理できるか。

採用スケジュール(令和3年度国家公務員中途採用者選考試験)



5. 近畿農政局若手職員紹介

役職・所属については、紹介記事作成時のものを表記しています。

役職・所属に変更があった職員は、()内に令和3年11月現在の役職・所属を表記しております。

H27採用 生産部生産振興課豆類振興係 黒川 仁美さん

～現場の課題・問題意識を感じられる業務～

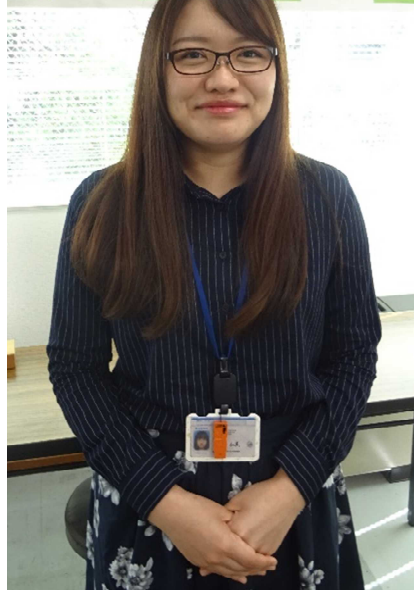
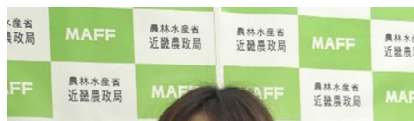
今担当している仕事は？

近畿管内の豆類の生産振興業務を担当しています。府県担当者から報告のあった大豆や小豆の生育状況をとりとめるようなデスクワークをしたり、実需者(豆腐屋さん等)・学識経験者(大学教授等)・生産者など大豆の関係者に集まっていただいて、生産現場(大豆のほ場)にて意見交換会・講演会を開催したりしています。農業現場での生産者の方々との意見交換会に参加させていただく機会もあり、「現場が抱える課題や問題意識」を直に感じられる業務環境です。

～国産農作物の生産を携われる仕事～

近畿農政局を志望した理由は？

新鮮な国産の農産物を守っていく仕事ができると考えたからです。就活をしている際、実家で新鮮な野菜を食べていて、この野菜が自分の子ども世代・孫世代になっても食べていけるのだろうか...とふと思ったことから、農林水産省について調べ、志望するに至りました。



～周りのかたの優しいサポート～

職場環境について

現在所属している課だと周囲の方は農学区分での採用の方が多いのですが、行政区分で採用された私にも変わらず親切に接して下さいますし、直属の上司であるか否かに関わらず質問や相談に優しく対応してくれます。私は学生の時、社会人になるのがとても怖かったのですが、周りの方が優しくサポートして下さることで今まで続けてこられたと感じています。

有給休暇は1時間単位で取得できるので、業務を調整すれば「私用のため夕方2時間お休みを取って早めに帰らせてもらう」ということも可能です。大型連休に合わせて有給休暇を取る方も結構いて、非常に取得しやすい環境です。

～職場や職員の方の雰囲気重視～

皆さんへのメッセージ

公務員試験では、大学の先輩から”面接を疎かにしないように”と聞いていたので、自分自身・志望先・公務員という職業について念入りに調べてノートにまとめ、面接の想定問と回答案を作っては、カメラに向かって毎日面接練習をしていました。

就職すると生活の大部分をそこで過ごすことになるので、何を重視して選んだらいいのかと悩むこともあるかと思いますが、私は、職場や職員の方の雰囲気に強く惹かれたことを重視して決めましたが、今でも良かったと感じています。この文を見てくださっている方が、近畿農政局に来た際、同じように感じてくださると嬉しいです。いつか一緒に働けることを楽しみにしています。

H27採用 和歌山平野農地防災事業所用地第一課補償係長 立野 晃史さん

(令和3年11月現在 同事務所用地第一課補償第1係長)

～用地交渉が成立した時の達成感のある仕事～

今担当している仕事は？

私は、現在、近畿農政局の出先機関の和歌山平野農地防災事業所に在籍しております。和歌山平野農地防災事業では、農地や町に水がつかないように排水路や排水機場などの排水施設を整備しており、その中で私は、工事に必要な土地の買収や借地などを行っています。

土地の所有者に納得していただくまで説明を行うため、交渉に何か月もかかる場合もありますが、交渉がうまくいったときは非常に達成感を感じることができる、やりがいのある仕事です。

～雰囲気自分が自分にある感覚～

近畿農政局を志望した理由は？

合同業務説明会で話を聞き、また官庁訪問のときに人事の方と話をしていくうちに、人事の方の雰囲気が自分にあるな、私もここで働きたいなと思い、志望しました。



～非常に働きやすい環境～

職場環境について

近畿農政局は非常に働きやすい環境にあると思います。社会人になったらストレスを抱えることが多いというイメージを持っていましたが、入ってみて仕事をすると周りの方々がいろいろ助けてくれるので、ストレスを抱えることはあまりなかったです。また、残業も、繁忙期を除き、ほとんどないですし、有給休暇も月一回以上取得しております。

～いろんな説明会に参加を～

皆さんへのメッセージ

ぜひ、いろんな業務説明会に参加してください。そして、いろんな人の話を聞いてみてください。いろんな人の話を聞いて、ここで働きたいと思えるところを見つけてください。就職活動で、皆さんの選択が後悔しない結果になることを祈っております。

H28採用 南近畿土地改良調査管理事務所庶務課庶務係 丹羽 知之さん (令和3年11月現在 同事務所庶務課経理係に所属)

～出先機関(事業所)の庶務を担当～

今担当している仕事は？

現在は近畿農政局の出先機関で庶務を担当しています。具体的な業務内容は、職員の勤務時間の管理、給与計算、宿舍の管理等です。

～農業の振興に貢献したい～

近畿農政局を志望した理由は？

人間の健康には「食」が欠かせませんが、国内の農業を取り巻く情勢は厳しいものがあり、食料の安定供給を実現するために少しでも農業の振興に貢献できればと思い志望しました。

近畿農政局では出張等で現場の農業者とお話する機会があり、とてもいい刺激になると思います。



～相談しやすく休暇もとりやすい職場～

職場環境について

今の職場は分からないことがあれば相談しやすい雰囲気でもとてもやりやすく感じています。残業は時期によりますが、多すぎるというほどではないです。休暇は管理職も積極的に取得しているため、自分も取りやすいです。

～どんな方でもウェルカム～

皆さんへのメッセージ

どんな方が来てくださってもウェルカムですので、就職活動にあたって近畿農政局を選んでいただけると嬉しいです！

H31採用 会計課支出負担行為係 泉岡 佑奈さん

(令和3年11月現在 本省輸出・国際局国際経済課に所属)

～1年目から刺激を受けることが多い仕事～

今担当している仕事は？

会計事務を担当しています。印象に残っているのは、会計検査のお手伝いをさせていただいたことです。会計検査に向けてどのように準備をするのかを知り、当日は調査官の方と各部担当者との質疑応答を近くで拝見しました。一年目からこのような場に何度か立ち合わせていただいたことは、大変勉強になり、とても刺激を受けました。

～留学で感じた日本の食文化の魅力～

近畿農政局を志望した理由は？

大学時代に海外留学をし、日本を長期間離れたことで、食の大切さや日本の食文化の魅力を改めて感じました。日本の食の豊かさをこれからも守り、食の観点から日本と海外を繋ぐことに貢献したいという思いから、農林水産省を志望しました。

近畿農政局の魅力は研修が充実している点です。5日間の農村派遣研修では、実際に野菜の出荷準備や収穫のお手伝いをさせていただき、現場を知る貴重な経験になりました。



～人に恵まれた職場～

職場環境について

周りの人に恵まれていると感じる毎日です。分からないことがあれば溜め込まずに上司や先輩に聞きやすい雰囲気です。困ったときには周りの方々が助けてくださるので、何事にも安心して取り組みます。

夏季休暇等を活用してまとまった休みも取れますので、しっかりとリフレッシュできます。ワークライフバランスを大切にできる職場環境だと思います。

～様々な分野に興味を持って～

皆さんへのメッセージ

現時点での第一志望に捕らわれず、広くアンテナを張り、様々な業界、省庁、都道府県庁の説明会等に参加すると良いと思います。ここで働いてみたいと思う場所の一つでも多く見つけておくことは、選考が始まってからの自分の安心材料になります。多種多様な分野で働く方々のお話を聞けるのは就活時代の特権だと思います。不安が募ることもあるかもしれませんが、今しかできない経験を楽しむ感覚で就活を乗り切ってください。

H31採用 総務課支給係 植村 絹子さん

(令和3年11月現在 本省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課に所属)

～日々成長を感じられるやりがいのある仕事～

今担当している仕事は？

給与支給事務を担当しています。職員の生活を左右する大切な仕事ですので、緊張感をもって取り組んでいます。一口に給与と言えど、手当や制度など様々な項目があり、分からないときは上司の方に相談したり書籍で調べるなど、勉強することが多く日々成長を感じられます。

給与事務には毎月締め切りがあるため、スケジュールを意識しながらの作業となりますが、無事払い終えた際は今月も無事完了した！と毎回やりがいを感じられます。

～大好きな食の発展に貢献したい～

近畿農政局を志望した理由は？

食とは「ただ栄養を摂ること」以上に安らぎや団らん、豊かさを提供してくれます。大好きな食をこれからも継承・発展させていくため、生産者側からも消費者側からも支えたいと思い、志望しました。

また、業務説明会で実際に職員の方々々と交流し、優しく面白い方ばかりで雰囲気がよく、ぜひここで働きたいと思いました。



～楽しくて働きやすい職場～

職場環境について

上司や先輩の方々は大変優しく、些細なことでも丁寧に教えてくださり、感謝しています。他の係の方からも気にかけていただき、大変楽しく働きやすい職場だと感じています。

休暇は1時間単位でも取得可能ですので仕事を調整しながらプライベートも充実させることができます。昨年の夏は夏季休暇+年次有給休暇をとり、旅行に行ったりリフレッシュしてきました！

～面接では自信を持って熱意を伝える～

皆さんへのメッセージ

私は特に面接に苦手意識を持っており、筆記試験勉強をする傍ら大学のキャリアセンターやハローワークを活用するなど模擬面接の練習に力を入れていました。本番は大変緊張するかと思いますが、落ち着いて自分の熱意をしっかりと自信を持って伝えれば面接官の心にも響くと思います。

また、筆記試験終了から面接試験対策に切り替えるのは何から始めてよいか焦りがちです。試験勉強の息抜きがてら様々な官庁に興味を持ち、感じたことをノートに書き留めておいたり、官庁に関する最新トピックをチェックしておくこと志望動機作成や、自分が働く姿をよりイメージしやすくなりモチベーション向上にも有効です。ぜひお試しを！！(失敗からの教訓です…)



H31採用 総務課厚生係 馬場 祐輔さん (令和3年11月現在 本省大臣官房統計部経営・構造統計課に所属)

～勉強が業務の理解につながる仕事がやりがい～

今担当している仕事は？

現在は厚生係で、主に健康診断の関係や財形貯蓄(毎月積立の貯金のようなもの)といった職員の方の福利厚生に関する業務と、非常勤職員の社会保険の手続きに関する業務を担当しています。

業務について、まだまだ理解の足りないこともあります。周りの方に教えていただいたことや、勉強したことが、業務に活きて、業務について理解が深まったときにやりがいを感じています。

～幼い頃の経験がきっかけに～

近畿農政局を志望した理由は？

私は祖父がトラクター等の農機具を修理する仕事をしていて、また、家の周りが農地であったことから、農業というもの幼い頃から身近にありました。そのため、身近にあった農業についてどういったことをしているか興味を持ち説明会に参加しました。

その説明会で、生産から消費まで幅広い分野に取り組む官庁であることを知り、様々な側面から身近な食や農業に携われることに魅力を感じ農政局を志望しました。

また説明会を通じて職員の皆さんのあたたかさを感じました。それも農政局を志望した決め手の一つです。魅力だと思います。



～雰囲気・休暇・研修どれをとっても働きやすい～

職場環境について

職場の雰囲気については、分からないことについては丁寧に教えてください、一人での対応が難しい問題については、一緒になって考えてくださいます。

また、研修も豊富で、農村派遣研修といった実地の研修や、各課の課長から政策について講義いただくような研修等様々な研修があり、知識や経験を得る機会に恵まれています。

休暇についても、休暇の理由も必要ありませんし、局全体で休暇を取ることが推奨されているので取りやすい雰囲気であると思います。

このように、非常に働きやすい環境であると思います。

～勉強や対策をしてきた自分を信じて～

皆さんへのメッセージ

私もこの時期は公務員試験に向けて、最後の仕上げということで改めてテキストを読み直したり、面接の対策を行ったりしていました。大変な状況でいろいろな苦労があるとは思いますが、勉強量や対策は裏切らないと思いますので、自分を信じて頑張ってください。みなさまと一緒に働ける日を楽しみにしております。



御覧いただきありがとうございました！！

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HPに掲載しています。



【近畿農政局採用HP】

- お問い合わせ先（行政） 農林水産省近畿農政局総務課人事第1係
Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp
Tel: 075-414-9032

御不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。